

富山市におけるツキノワグマによる2006年秋のカキノキの痕跡

著者	南部 久男, 白石 俊明
雑誌名	富山市科学博物館研究報告
号	36
ページ	9-11
発行年	2012-06-20
URL	http://repo.tsm.toyama.toyama.jp/?action=repository_uri&item_id=979

短 報

富山県におけるツキノワグマによる
2006年秋のカキノキの痕跡*

南部久男

富山市科学博物館

〒939-8084 富山市西中野町一丁目8-31

白石俊明

富山市ファミリーパーク

〒930-0151 富山市古沢254

**Use of the Japanese persimmon by
Asiatik Black Bear in Toyama
Prefecture, during autumn in 2006.**

Hisao Nambu

Toyama Science Museum

1-8-31 Nishinakano-machi, Toyama-shi,

Toyama 939-8084, Japan,

Toshiaki Shiraishi

Toyama Municipal Family Park Zoo

254 Furusawa, Toyama-shi,

Toyama 930-0151, Japan

はじめに

近年、富山県では2004, 2006, 2010年秋にツキノワグマ(以下クマと称す)が大量出沒したことが知られている(自然環境センター, 2005; 富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク, 2005; 富山県, 2005, 2007, 2012; 南部, 2007, 2011)。また、過去には、1953年にも県西部を除く富山県でクマが大量出沒したことが知られている(南部, 2008)。

クマの大量出沒年には、山麓部を中心にクマが出沒し、多くのカキノキにクマの爪跡が確認され、2004年秋の大量出沒時には一部の地域で(富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク, 2005)、2010年秋の大量出沒年には、県内の小河川流域でカキノキに残るクマの爪跡調査が行われた(後藤・南部, 2011a, b; 2012a, b)。クマの大量出沒時あるいは平時にカキノキに残るクマの痕跡を

記録しておくことは、山麓部や河川流域の人里周辺でのクマの出沒状況を知る上での基礎資料になると思われる。今回、2006年秋のクマ大量出沒時のカキノキへのクマの痕跡(爪跡)を調査したので報告する。

方法

調査は2007年1月~9月にかけて県内の山麓部や河川流域の24地域で行われた(表1, 図1)。各調査地の河川沿いの道路沿い、河川の土手、水田、畑周辺などのカキノキの幹にクマによる新しい爪跡(2006年秋のもの)と古い爪跡(2006年秋より前のもの)の有無を確認した。

結果及び考察

新しい又は古いクマの爪跡のいずれも確認されなかったのは、和田川と仏生寺川だけであった(表2)。

2006年秋にクマの爪跡が確認された地域は、笹川、小川、黒部川、角川、早月川、上市川、白岩川、常願寺川、神通川水系(熊野川、熊野川(平地)、小佐波川、急滝川、神通川本流、久婦須川、野積川、大長谷川、山田川)、庄川、庄川上流、小矢部川水系(山田川、小矢部川左岸側、渋江川)の22地域であった。これらの地域で、笹川と庄川上流を除く20地域で、2006年秋より前の爪跡があった。

調査本数が10本以上で、2006年のクマの爪跡のある木の割合が、50%以上であったのは、笹川と角川で、30%以上は、小川、早月川、神通川本流、庄川、小矢部川左岸側であった。

年にかかわらず調査本数が10本以上で、調査本数に対してクマの爪跡のある木の割合が50%以上の地域は、笹川、角川、早月川、野積川、庄川、小矢部川左岸側で、30%以上は、小川、上市川、白岩川、常願寺川、熊野川、神通川本流、久婦須川であった。

クマが大量出沒した2006年秋は、多くの地域でクマがカキノキに爪跡を残し、新たに爪跡を残したカキノキもあれば、2006年秋より前に爪跡を残したカキノキに再度爪跡を残した事例もあったことが分かる。2006年秋のクマの大量出沒時には、カキノキの利用が増え、特に神通川水系以東で顕著であったと考えられる。

2006年秋より前の爪跡は、2004年秋の大量出沒年の可能性が高いと思われる。

参考文献

後藤優介・南部久男, 2011a. 渋江川流域におけるツキノワグマの採食痕跡. 富山の生物, 50: 43-46

* 富山市科学博物館研究業績第440号

表1 調査地

地図番号	調査流域	環境	標高(m)	調査日
1	笹川	山間川沿い	50-90	3/24
2	小川	山間川沿い, 山麓	40-140	3/24, 8/29
3	黒部川	山麓	90-190	9/1
4	角川	山間川沿い, 山麓	80-240	3/17, 9/4
5	早月川	山間	230-430	3/17
6	上市川	右岸支流沿い	40-280	3/17, 9/4
7	白岩川	山麓, 山間	120-280	9/3
8	常願寺川	右岸山麓	190-260	8/31, 9/3
〈神通川水系〉				
9	熊野川	河川周辺	65-135	2/12, 2/18, 3/10
10	熊野川(平地)	河川周辺平地	40-55	2/12, 2/18, 3/9, 3/10
11	小佐波川	山間川沿い	150-250	3/10
12	急滝川	河川周辺	60-130	1/27, 3/10
13	神通川本流	本流周辺山麓	110-250	9/9, 9/10
14	久婦須川	山間, 山麓	110-240	1/27, 1/28
15	野積川	山間	200-380	5/13, 5/16
16	大長谷川	山間	150-380	9/11
17	山田川	山間, 川沿い	50-330	2/22, 23, 9/11
〈庄川水系〉				
18	和田川		70-80	6/3, 8/21
19	庄川	右岸側山麓, 左岸側山麓と平地	100-130	8/21
20	庄川上流	山間	340	6/3
〈小矢部川水系〉				
21	山田川		220-250	3/17, 6/3, 8/21
22	小矢部川左岸側	山麓	100-230	3/25, 5/20, 6/10
23	渋江川	山間	70-250	3/25, 4/2
24	仏生寺川	山間	70-220	4/3

調査年は全て2007年。24仏生寺川は上庄川上流流域を含む。

後藤優介・南部久男, 2011b. 富山県の小河川流域におけるツキノワグマによる樹木への採食痕跡. 富山の生物, 50: 97-102

後藤優介・南部久男, 2012a. 舟川におけるツキノワグマの採食痕跡. 富山の生物, 51: 45-48.

後藤優介・南部久男, 2012b. 富山県におけるツキノワグマによる2010年秋のカキノキ利用状況について. 富山の生物, 51: 93-100.

南部久男, 2007. 富山市におけるツキノワグマの出没記録(2005・2006年). 富山市科学文化センター研究報告第, 30: 109-126.

南部久男, 2008. 1953年の富山県におけるツキノワグマの大量出没記録. 富山市科学博物館研究報告, 31: 123-132.

南部久男, 2011. 富山市におけるツキノワグマの出没記録(2010年). 富山市科学博物館研究報告, 34: 177-192.

自然環境研究センター, 2005. ツキノワグマの大量出没に関する調査報告書(平成16年度ツキノワグマ個体群動態等調査事業). 115pp.

富山県, 2005. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針(ガイドライン). pp.27+35.

富山県, 2007. 富山県ツキノワグマ保護管理暫定指針(ガイドライン). pp.93.

富山クマ緊急調査グループ・日本クマネットワーク(JBN), 2005. 富山県における2004年のツキノワグマの出没状況調査報告書. pp.112+CD.

富山県, 2012. ツキノワグマ目撃・痕跡情報(過去5年間) http://www.pref.toyama.jp/cms_sec/1709/00003647/00509519.pdf.

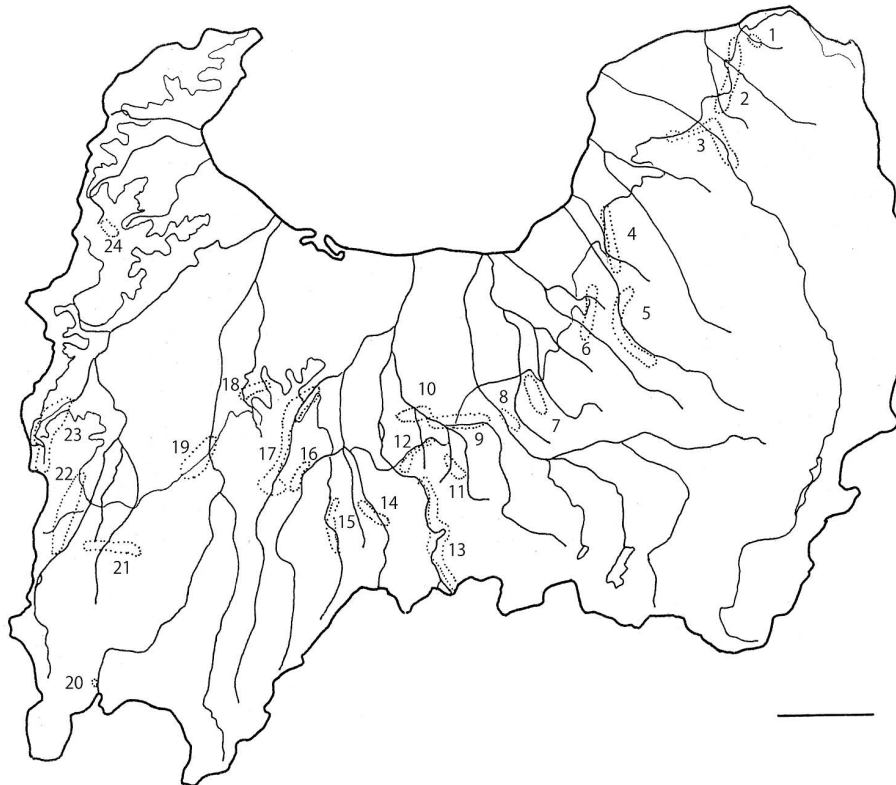


図1 調査地域(破線で囲った部分). 番号は表1に対応する. 富山県の図の細線は標高100m. バーは10km.

表2 各調査地域のカキノキのクマ爪跡の確認状況

地図No.	調査流域	調査本数	2006年秋のみ 爪跡あり	両時期 ¹⁾ 爪跡あり	2006年秋より前 のみ爪跡あり	爪跡なし	2006年秋に爪跡 のあった割合	爪跡が あった割合
1	笹川	14	11	0	0	3	78.6	78.6
2	小川	43	13	4	2	24	39.5	44.2
3	黒部川	33	4	1	1	27	15.2	18.2
4	角川	30	2	14	5	9	53.3	70.0
5	早月川	12	2	2	4	4	33.3	66.7
6	上市川	39	0	2	12	25	5.1	35.9
7	白岩川	32	0	7	6	19	21.9	40.6
8	常願寺川	46	1	4	9	32	10.9	30.4
〈神通川水系〉								
9	熊野川	78	2	10	26	40	15.4	48.7
10	熊野川(平地)	58	4	4	5	45	13.8	22.4
11	小佐波川	9	2	6	0	1	88.9	88.9
12	急滝川	9	1	2	2	4	33.3	55.6
13	神通川本流	74	16	9	7	42	33.8	43.2
14	久婦須川	26	0	6	2	18	23.1	30.8
15	野積川	17	0	5	6	6	29.4	64.7
16	大長谷川	8	3	1	2	2	50.0	75.0
17	山田川	98	17	4	4	73	21.4	25.5
〈庄川水系〉								
18	和田川	12	0	0	0	12	0	0
19	庄川	17	1	6	4	6	41.2	64.7
20	庄川上流	4	2	0	0	2	50.0	50.0
〈小矢部川水系〉								
21	山田川	115	6	8	17	84	12.2	27.0
22	小矢部川左岸側	56	2	18	15	21	35.7	62.5
23	渋江川	33	0	2	1	30	6.1	9.1
24	仏生寺川	56	0	0	0	56	0	0
計		919	89	115	130	585		

1) 両時期とは、2006年秋と2006年秋以前を示す。

